

飯伊地区 産業経済動向

No.510 2021/9
(3.10.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,280 枚	△ 15.2 %	△ 6.6 %	△ 30.5 %
	金額	2,770,797 千円	△ 27.5 %	△ 32.4 %	△ 42.7 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 1 枚)	(前年同月 0 枚)	(前々年同月 0 枚)
	金額	0 千円	(前月 72 千円)	(前年同月 0 千円)	(前々年同月 0 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	4 件	(前月 1 件)	(前年同月 6 件)	(前々年同月 7 件)
	飯伊	1 件	(前月 0 件)	(前年同月 0 件)	(前々年同月 3 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(8月)		46 戸	△ 24.6 %	△ 54.0 %	△ 6.1 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(8月)		1.41 倍	(前月 1.41 倍)	(前年同月 1.00 倍)	(前々年同月 1.47 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,737 台	△ 4.6 %	△ 36.7 %	△ 48.0 %
	中古車	724 台	14.2 %	△ 5.6 %	△ 10.0 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (8月)	新車	2,896 台	△ 17.3 %	△ 14.2 %	△ 20.4 %
	中古車	873 台	△ 12.1 %	△ 0.9 %	9.0 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	80,010 台	△ 1.6 %	△ 17.6 %	△ 31.7 %
	出	80,166 台	△ 2.6 %	△ 18.2 %	△ 32.2 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	53,286 台	9.9 %	△ 25.6 %	△ 36.2 %
	出	53,127 台	11.7 %	△ 24.1 %	△ 33.8 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	12,354 台	△ 9.2 %	△ 21.0 %	△ 23.4 %
	出	11,763 台	△ 12.2 %	△ 24.4 %	△ 25.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	36,296 台	△ 5.5 %	△ 9.7 %	△ 17.4 %
	出	35,994 台	△ 13.8 %	△ 10.4 %	△ 20.1 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	27,417 台	11.6 %	- %	- %
	出	27,047 台	9.3 %	- %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		140 件	21.7 %	△ 40.4 %	△ 21.3 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		2 件	(前月 1 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 6 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	6,230 人	△ 11.2 %	4.7 %	△ 77.6 %
	飯田～名古屋	4,937 人	△ 28.2 %	△ 16.3 %	△ 73.8 %
	飯田～長野	2,852 人	12.2 %	△ 19.9 %	△ 67.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	4,242 人	0.5 %	18.3 %	△ 81.3 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,709 人	△ 5.8 %	△ 4.4 %	△ 26.5 %
	右回り	2,736 人	0.3 %	△ 2.5 %	△ 23.9 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは上昇も、原材料価格の上昇が不安材料

当月の製造業の業況判断指数（D I）プラス14.8で、前月から18.1ポイント上昇。翌月予測はプラス26.9で、前月から12.1ポイント上昇。今月、原材料価格が上昇との回答は製造業全体6割を超えるが、そのうち販売価格は変わらないとの回答が約9割となっている。今後値上げ交渉を行うとの声も一部聞かれたが、価格転嫁が容易ではない様子が窺える。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑景況感…横ばい～やや好転。販売、受注ともに前月比減少との声は聞かれない。
- ☑販売価格…原材料価格の上昇が続く中、販売価格は全ての事業者で変わらないとの回答。

[企業からのコメント]

- ・原材料単価は上昇しているが、売価には簡単に反映できない。
- ・半導体の調達が非常に困難になっており、受注への影響が大である。
- ・景気は回復してきていたが、ここへ来て半導体の入手不足、コロナ感染、中国経済の低迷等により、この先の状況は不透明になってきている。

●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑景況感……横ばい～やや好転。依然高水準の生産が続いている様子。
- ☑原材料価格…来年早々にも更に価格上昇との声が聞かれ、利益率の悪化を懸念する声も複数寄せられた。
- ☑販売価格……横ばい。原材料高騰を受け、今後値上げ交渉を予定との声も。

[企業からのコメント]

- ・旺盛な需要を背景に、半導体製造装置は軒並み増産傾向。再来年までは段階的に需要の引き上げが予想される。
- ・人員不足や原材料高騰で増収減益傾向。販売価格に転嫁できない状況であり、繁忙ながら厳しい。
- ・需要は安定しているが、材料の値上がりがかいつまで続くか気掛かり。まだ長引くのであれば単価見直しを検討したいが、理解が得られるかどうか不安である。

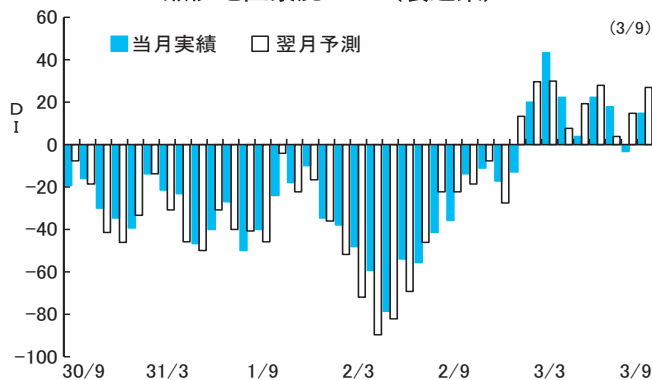
●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑景況感…業者により分かれるが、横ばいとの声が多い。販売は、前月は稼働日の影響で減少の声が多かった分、今月は増加との声が多い。
- ☑販売価格…リピート品は価格転嫁が厳しいとの声の一方、仕入価格変動をその時点で納入単価に反映するとの声も。

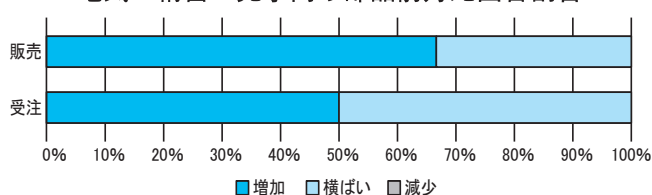
[企業からのコメント]

- ・購入品は品不足になっているが、全体的に仕事動き出している。
- ・新型コロナに対してワクチン接種は大いに効果あり。経済活動も徐々に回復しており、受注も増加。
- ・「人員不足が続いており、補充できるまで募集を継続」「今後、若年者を採用したい」

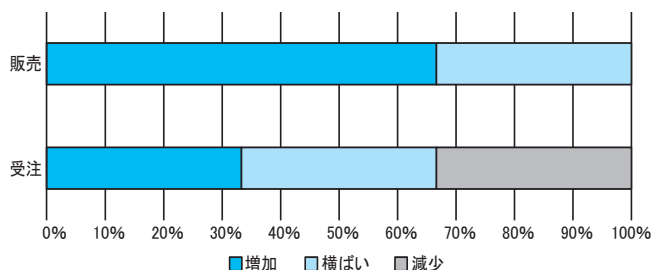
飯伊地区景況DI（製造業）



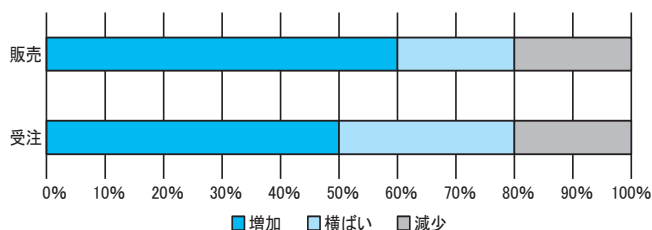
電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



●半生菓子、菓子原料等

売 上……前月比やや減少～横ばい。景況感には大きな変化は見られないという。コロナの落ち着いたきは歓迎も、先行きの不透明感は続くとの声が聞かれた。

販売価格…原材料価格は全業者で上昇との声が聞かれたが、販売価格は変わらないという。

[企業からのコメント]

- コンビニ向けの新規と、テーマパーク向けが一部再開となった。
- 「油、小麦、包材が値上げとなった」「光熱費が値上がりした」
- 「人員不足。今後も不足の見通し」「現状、複数名募集中」

●水引製品

売 上……前月比は増加との声が多く、前年比でもやや増加との声が聞かれた。

原材料価格…販売価格とともに大きな変化は見られないが、先行きは上昇を見込むとの声も。

[企業からのコメント]

- 正月飾りは例年通りの受注があり、一息ついた。今後の追加注文にも期待している。
- 中国内の新型コロナの影響で輸入コンテナの大幅な遅れが生じている。船便や港の混雑も続いており、解消は当分先になりそうとのことで、今後の影響が心配。
- 9月の販売は前年と同等程度だが、冠婚葬祭は減少しており、寸善尺魔の状態が続くと思われる。
- エスバードで修学旅行生徒の水引体験受け入れのニュースがあった。行政と業者の協力でこのような場が設けられたことは誠に喜ばしい。出来るだけ維持してほしい。

●漬物

売 上…前月比、前年比ともにやや減少。

[企業からのコメント]

- 人員は職種により募集、設備投資は更新にとどめる。
- 9月は天候の影響で原料野菜も品薄。各社調達に苦労した。

●上記以外の製造業

建築用金属製品…販売は、前月比、前年比ともに減少も、景況感はやや改善傾向という。

自動車向け部品…販売は、前月比、前年比ともに減少。景況感是一部にやや悪化したとの声。

印刷、出版関連…販売は、前月比増加、前年比もやや増加という。原材料価格の上昇も続いているという。

服飾製造……販売は前月比、前年比減少も、先行きはやや上向きとの声。

[企業からのコメント]

- 引き合いは増加傾向にあるが、建築関連は相変わらず厳しい。全国的に同業他社も同様。
- 印刷業界は来年以降のイベントに関しては復活の話が出始めている。しかし今秋のイベントについては中止のものが多数。
- 洋服の売上が少しずつ伸びてきており、特にスポーツ（ゴルフ）ブランドは好調のようだ。コロナ禍で外出が制限されている中、郊外での感染が少ないこと、海外メジャーでの日本人優勝が影響していると推測される。衣料品全体としてはインバウンド需要が見込めないため、百貨店専門店が苦戦続き。
- 服飾業界は、まだまだコロナ次第でどうなるかという不安定な受注状況が続いており、同業他社でも廃業が続いている。
- ベトナム生産がロックダウンの影響により中国シフトも進んでいるが、中国も国内需要をまかなうだけのキャパが不足しており、加工賃が高騰。日本からの委託生産も依頼しにくくなっている。
- 「増員を予定」「人員は恒久的に不足」「工務系を求人中」「現状は過不足なし。今後は新入社員教育と新規募集を行う」

建設業

官公需

概況 9月の公共工事入札金額は、前月比増加も前年比減少。
依然繁忙感はあるも、受注の一服感を伝える声も

☑公共工事入札額…当地区における当月の県、市町村

発入札額注工事の入札額合計は、約24.1億円。前月比18%増加。前年比では42%減少。(10月15日調査時点)

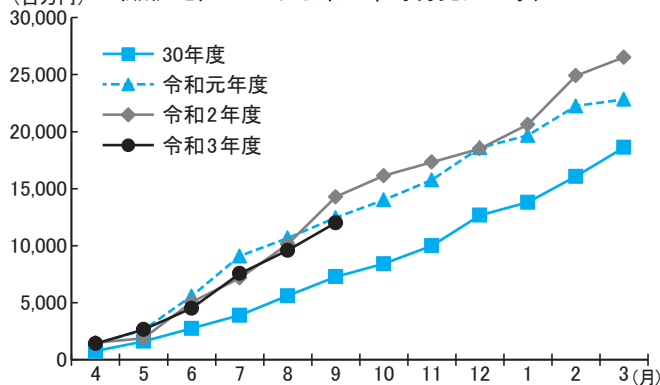
☑受注残高……前月比増加との声も一部にあるが、やや減少～横ばいとの声が多い。

☑景況感……大きな変化はないとの声が多数。地域によって完工高減少との声も聞かれたが、こうした業者でも年度末に向け受注の増加を見込む声が多い。

☑原材料価格……様々な物資で上昇傾向との声。

入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新報新聞入札結果欄より抜粋)

[企業からのコメント]

- ・「土木は災害復旧、国土強靱化対策、三遠南信道路建設などで、依然地元建設業界は忙しく、職人、技術者不足が続いている」「公共事業の安定的な発注を期待も、技術者、技能者不足で受注ができない傾向」「受注は前年比増加」
- ・維持工事など小規模工事はあるものの、新たな発注待ちの状況。
- ・「施工職員不足」「土木、建築技術者、営業職を常に募集」「人員不足」「1名入社予定」「業務量はあるが技術者不足」
- ・「砕石、生コンなど上昇」「鉄関係も値上がり傾向」「燃料高騰で石油製品、諸材料値上がり」「人件費増加も圧迫要因」

民需

概況 令和3年8月の住宅着工戸数は46戸。前月比25%減少も、一部に景況感が好転したとの声も。

☑住宅着工戸数…当地区の8月の住宅着工戸数は46戸。

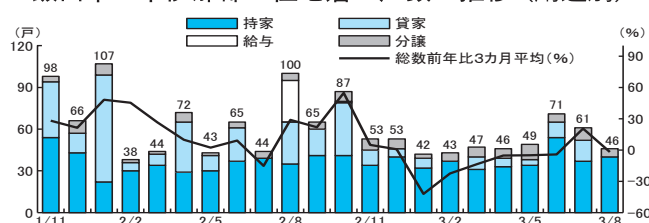
前月比25%減少、前年比も54%減少。

☑景況感……受注残高は業者により増減分かれる。

民間の大型建築工事はさほど多くはないとの声が複数。

☑原材料価格……引き続き上昇基調との声が多い。

飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移(用途別)



(資料：長野県住宅部)

[企業からのコメント]

- ・「新築住宅はますますだが、一般工事や公共の建築工事、リフォームは少なくなってきた」「大型建築は少ないが、リフォーム、内装、給排水等の工事はあり、依然職人不足」「コロナ禍で民間工事の冷え込みは続いているが、徐々に受注も」「公共建築を受注」
- ・「リニアの移転工事がちらほら見受けられる。営業力が必要」「当地区の住宅マーケットは小さいが、大手は知名度と営業力でそれなりの売上がある。ここ数年は価格の安い住宅メーカーが伸びている」
- ・「資材価格どんどん上がる。当然工事単価も上がる」「輸入の建築向け木材が前年に比べ大幅上昇」

建設資材等

概況 8月の生コン、骨材の売上は、前年比で増加傾向

☑生コン…売上の前月比は業者により増減分かれるも、前年比では増加傾向。

☑骨材…売上は、前月比、前年比とも増加との声。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、三遠南信工事、リニア関連工事、発電所工事、護岸工事、治山工事、工場新築に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の5%弱。
- ・先月に引き続き仕事量があり多忙。今後も新たな仕事がありそうで、午後からの出荷など残業も増えそう。
- ・地元業者は今受けている仕事で手一杯。余裕はなさそう。

商業・サービス業

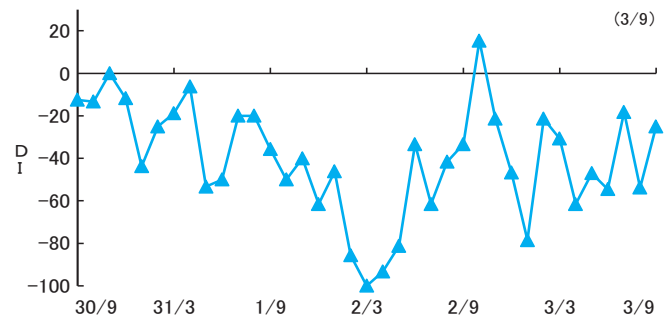
概況 新型コロナ禍の影響は大きいものの、終息後を見据える声も。

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）は、マイナス25.0で、前月から28.8ポイント上昇。

小売、飲食、運輸では、コロナ禍の影響を始め、様々な原因から景況感が悪化したとの声は多い。一方、宿泊業では、目下はコロナの影響を脱していないものの、今後の終息を期待する声が多く聞かれた。

調味料を始め、各種資材の値上がりを伝える声は多い。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上は前月比、前年比とも減少との声が多い。

☑売上……原因は様々だが、前月比、前年比とも減少との声が多い。

☑仕入単価…上昇しているとの声が多い。

[企業からのコメント]

- ・「コロナ禍の中、来店頻度の減少による来店客数の減少がみられる」「地域によって競合店の開店が影響している」「イベント等の中止で、オードブルなどの注文がない」「前年対比の減少は、昨年あった自治体のコロナ対策の反動があると思われる」
- ・野菜類、特に葉物が高値。
- ・「1名減員」「高校生の採用を開始」

●卸売業 概況 青果、菓子等の販売は前月比増加。前年比も増加との声も。

☑売上…前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。青果、菓子等の販売は好調との声。商品によって、コロナの直接的な影響は薄らぎつつあるものの、入荷に支障が残っているとの声も。

[企業からのコメント]

- ・8月前半の長雨、9月初旬の降雹でレタスなど葉物が品薄で高値。2年間不作だった松茸が当月多く入荷し、売上につながった。果実では、りんごは前進出荷の影響もあり入荷減で価格高。梨は順調な入荷。ぶどうも多品種にわたり入荷が多が順調な販売。
- ・生活用品の販売は、前月、今月と悪かった。お盆の長雨や高速道路の通行止めの影響が考えられる。
- ・OA機器は動きの少ない時期。コロナの直接的な影響は薄らいだ感があるが、半導体不足や物流のコストアップを通じて影響がある。特に一部商品の入荷停止で商談が進まない。中には今発注しても入荷は3月以降というのものも。
- ・引き続き太陽光発電や蓄電池といった商材が順調。大型物件の新規受注が少ないが、特に長野県南部は低迷。設備投資も中、北信ほどの量がない。緊急事態宣言解除後に期待する。
- ・暖房器具の主力が、ファンヒーターから暖房特化型エアコンに移りつつある。灯油の不使用で家庭の管理、使用が簡単なのが理由。対流ストーブや石油ストーブはアウトドアや災害に対する備えとしての需要がある。変化に対応していきたい。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上は前年比減少も、宿泊業では今後上向くとの見方が多い。

☑売上…売上は前月比、前年比とも減少との声が多い。飲食やタクシーなどでは宴会需要の戻りを懸念する声。宿泊業ではコロナ禍の沈静化を期待する声が多い。

[企業からのコメント]

- ・もともと9月は動かないが、上旬は営業時間短縮要請で夜の来店がなかった。時短要請解除後も戻りが悪く、宴会が入ってこない。お客様はコロナの様子を見ている感。テイクアウトも少ない。松茸が良く、多くのお客様に召し上がっていただきたかったが残念。調味料全般が値上がりしている。
- ・昼神温泉の現状は、修学旅行が動き出すもわずか。入込が増えてこない。しかし、このままなら10月には復活するのでは。人手不足を心配している。
- ・宿泊の問い合わせが増加している。
- ・昨年GOTOキャンペーンが始まり、シルバーウィークも長かった。客単価も伸び悩んだが、稼働率などでシルバーウィークが短かった分のマイナス程度で止まった。コロナの影響がこのまま落ち着けば人も動き出す。GOTOの再開も検討されているので期待したい。
- ・飲食店への時短要請で20時以降のタクシー等の利用は皆無。時短要請解除後も夜のお客様は上向いてこない。昼間の需要も低迷。コロナ禍の需要量で落ち着いてしまわないか、今後の消費動向が非常に不安。事業規模に合わせた支援を要請したが直接的な支援策はなく、厳しさだけが増している。LPG価格も上昇傾向。地域の公共交通事業者の減少は大きな問題となるのではないかと。

社会増減の状況は地域を反映

～総務省 住所地別転入・転出数統計に県下各自治体の特性をみる～

前号(2021/8発行号No.509)で、コロナ下での東京都民の地方への移動状況を紹介した。この中で、県下各自治体の社会増減をみたので、本号で取り上げたい。

総務省HPから、県下自治体の年齢区分別、男女別に転入・転出状況を取る。前号は対東京都の転入・転出状況だったが、本号は、全国・全地域との転入・転出であることに留意いただきたい。

1. 軽井沢町、佐久市、飯田市の状況

先ず、前号で取り上げた「コロナ疎開」がいわれる軽井沢町(グラフ1)であるが、10～19歳、20～29歳区分は辛うじてというレベルながら、全年齢区分で転入超となる。0～9歳区分の転入超数が全区分で最も多く、家族での移住も相当あるという状況が窺われる。

佐久市(グラフ2)は、10～19歳、20～29歳区分は転出超であるが、他の年齢区分は転入超である。30～39歳区分が最も転入超が多く、40～49歳区分がそれに続く。働き盛り世代が移り住んでいるイメージがある。

飯田市(グラフ3)は、50～59歳区分がプラスの他は全年齢区分が転出超。10～19歳区分もさることながら、20～29歳区分もそれを上回り転出超。従来は40歳台後半辺りから徐々に戻りがあり、リアタイア後に都会の人が移り住んでくる、というイメージがあったが実態はそうではないことが判る。コロナ下の2020年であることを考慮し、2019、2018年についても確認したが、ほぼ同様の傾向であった。

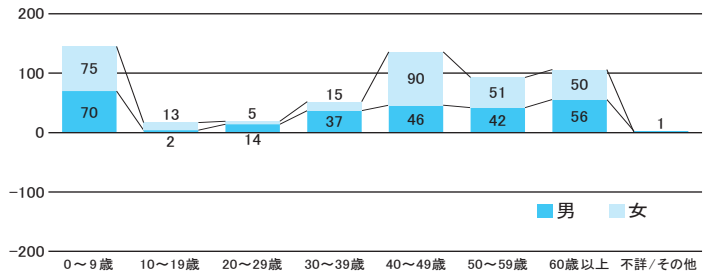
2. 県下主要市の状況

同様に県下主要市の転入超過数のグラフを右に示す。自治体毎の状況を見るに、次のポイントがありそうである。①0～9歳の乳児・学童世代、②10～19歳の就職・進学移動要因を伴う学齢世代、③20～29歳の大学・新社会人世代、④30～39歳、40～49歳、50～59歳の働き盛り・現役世代、⑤60歳以上のリタイア後世代。

長野市(グラフ4)は①世代は減少、②も減少で、③が最も減少数が多い、という状況は飯田市と同様。④現役世代は全体として増。⑤の増加数は全区分で最も多い。

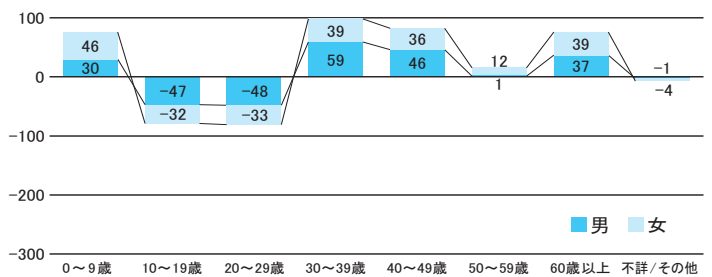
松本市(グラフ5)は、①は増加、②は男性が増加で女性が減少となる。松本市は四年制大学などにより男子の転入があるものの、女子を引き留める、もしくは女子を集める「装置」が不十分といえようか。③は増。④では男性が減少の区分があるが、女性は各区分増となっており、働く世代の女性は各区分で転入増。⑤は松本市でも全区分通じて転入増加数が最も多い。

グラフ1 性別・年齢区分別転入超過 軽井沢町 2020年

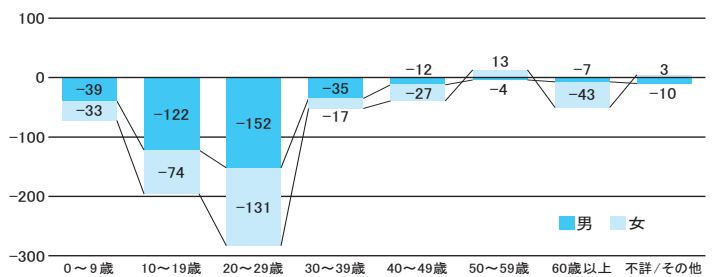


総務省 第1表 年齢、男女、移動前住所別転入数
第2表 年齢、男女、移動後住所別転入数 (総務省HP) より作成 (以下同様)

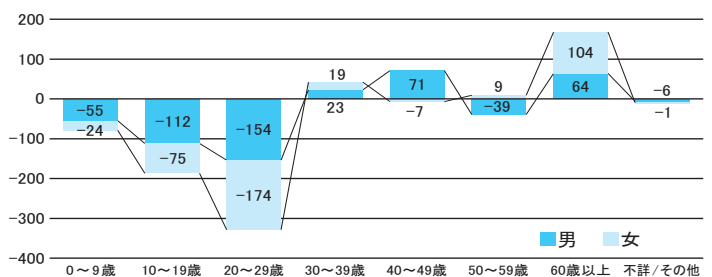
グラフ2 性別・年齢区分別転入超過数 佐久市 2020年



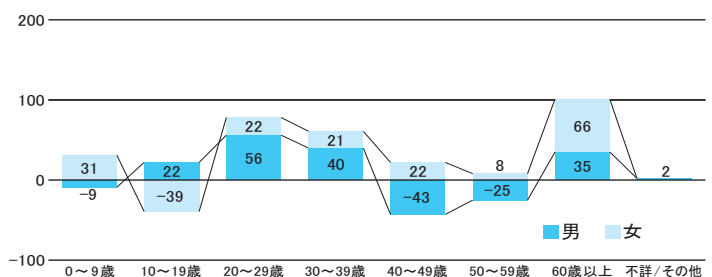
グラフ3 性別・年齢区分別転入超過数 飯田市 2020年



グラフ4 性別・年齢区分別転入超過 長野市 2020年



グラフ5 性別・年齢区分別転入超過 松本市 2020年



上田市(グラフ6)は、①はわずかに減少、②はやや減少、③が最も減少数が多く、④の増減数は僅かである。⑤世代は全区分で最も増加数が多い。

伊那市(グラフ7)は、①が微増。②、③が減少で③が最も減少数が多い。④の変動数は極めて少ない。⑤は増加してはいるがそれほど多くない。

駒ヶ根市(グラフ8)は、全般に増減幅は少ない。①、②はやや減少。③は男性が増加、女性が減少。④は全体として減少ではあるが、多くはない。⑤は増加。

3. 県下総じて言えることとして

以上から、県下主要市では、0～9歳区分は全般的にやや減少、10～19歳区分は進学等で多くの自治体で減少は免れないが、松本市のような例もある。20～29歳区分は最も減少幅が大きくなっていくが、松本市や軽井沢町、佐久市のような例外もある。若い人の就労状況によるものか。

30～39歳区分から50～59歳区分までは小幅な増減といえるが、軽井沢町は人口規模に比べるとかなり大幅な増となっている。

最後に、60歳以上区分では以上の主要市では増加、「老後は信州で」が窺われる中で、7市中で唯一減少しているのが飯田市である。

4. 60歳以上区分の動向は現役世代の状況を反映

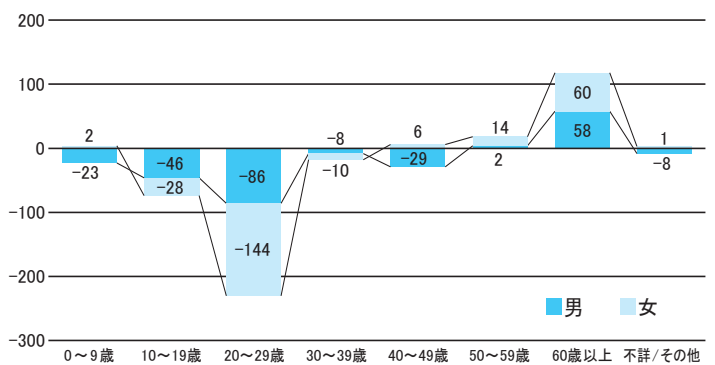
飯田市(グラフ3)の60歳以上区分では、60歳以上の転入超過数のマイナス値は実のところ、女性の転出に因るところとなっている。2018年から2020年の3カ年における60歳以上の転入超過数は、男性はそれぞれ+11人、+16人、△7人と、増加もしくは一桁の減少に対し、女性はそれぞれ△33名、△31名、△43名。飯田市健康福祉部長寿支援課によると、市内独居高齢者の約7割弱が女性。この方々の移動状況が表れると考えられる。これについて、「都会の子供のところへ行く」、「郡下町村の老人施設に入る」などと推測されているが、この統計のみからはその裏付けは得られない。

そこで、一つの仮説として「働き盛り世代の長年にわたる当地域からの流出により、高齢者をこの地域内で支えられなくなり、流出を招いているのでは」を立ててみる。

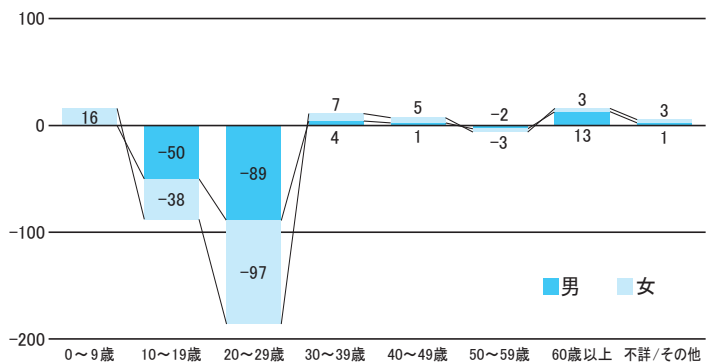
右グラフは総人口に占める生産年齢人口比率で2015年までは国勢調査による実績値、それ以降は予測値である。2015年時点の飯田市は7市中最低位。グラフの各市の順位がそのまま、60歳以上区分の転入超過数の順位に重なっているように見えるのであるが。

リニア時代を迎える当地域として、18歳問題への対応、子育て・現役世代対応、高齢者対応などの課題を考えることとしたい。

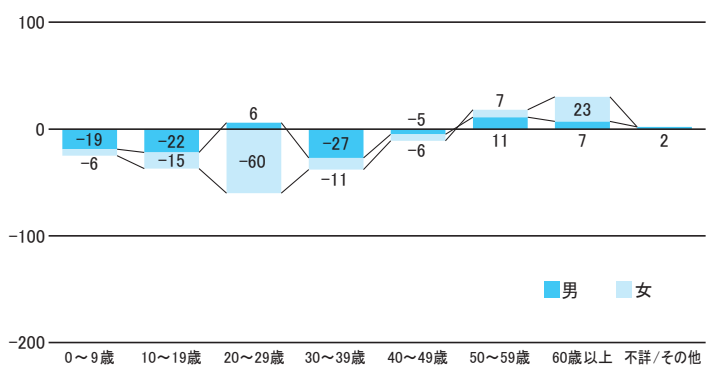
グラフ6 性別・年齢区分別転入超過 上田市 2020年



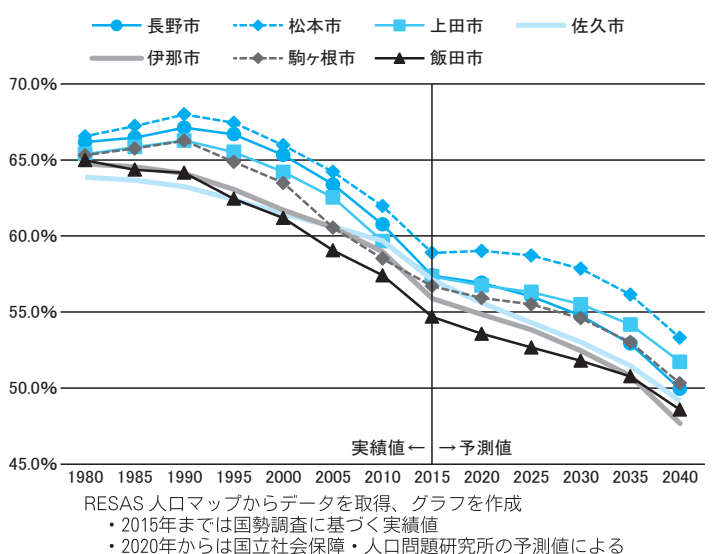
グラフ7 性別・年齢区分別転入超過 伊那市 2020年



グラフ8 性別・年齢区分別転入超過 駒ヶ根市 2020年



グラフ9 県下主要市 総人口に占める生産年齢人口比率



(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)

主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高速バス乗車人数							
	飯伊地区		飯田～新宿		飯田～名古屋		飯田～長野		伊那・駒ヶ根～新宿	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	戸	%	人	%	人	%	人	%	人	%
平成27年	563	△ 1.1	329,654	2.1	203,315	4.1	124,261	10.1	—	—
28	634	12.6	326,157	△ 1.1	208,771	2.7	115,843	△ 6.8	—	—
29	705	11.2	327,875	0.5	218,764	4.8	115,698	△ 0.1	—	—
30	637	△ 9.6	327,033	△ 0.3	219,979	0.6	112,882	△ 2.4	—	—
令和元	710	11.5	326,056	△ 0.3	226,581	3.0	108,454	△ 3.9	263,821	—
2	771	8.6	102,394	△ 68.6	85,747	△ 62.2	49,063	△ 54.8	71,390	△ 72.9
令和2.7	44	△ 31.3	4,617	△ 82.4	5,736	△ 68.8	4,049	△ 57.0	2,507	△ 88.4
8	100	104.1	4,400	△ 88.1	4,150	△ 81.9	3,040	△ 67.1	3,226	△ 89.0
9	65	△ 7.1	5,949	△ 78.6	5,901	△ 68.7	3,560	△ 59.0	3,586	△ 84.2
10	87	67.3	7,317	△ 60.9	7,335	△ 61.8	4,234	△ 52.1	4,778	△ 70.1
11	53	△ 45.9	7,299	△ 73.7	7,446	△ 59.6	3,782	△ 57.4	4,100	△ 81.3
12	53	△ 19.7	5,628	△ 80.3	5,813	△ 68.7	3,121	△ 60.5	3,274	△ 85.5
令和3.1	42	△ 60.7	3,607	△ 86.6	3,889	△ 78.3	2,914	△ 63.4	2,323	△ 89.0
2	43	13.2	4,209	△ 79.8	3,848	△ 74.5	2,949	△ 60.4	2,392	△ 85.9
3	47	6.8	6,925	△ 38.6	6,945	△ 19.9	3,953	△ 11.6	3,680	△ 60.9
4	46	△ 36.1	5,695	314.8	5,607	168.7	3,264	53.8	3,313	125.1
5	49	14.0	5,085	168.6	4,656	223.6	2,967	64.4	2,632	—
6	71	9.2	5,256	5.7	4,617	10.1	3,220	△ 7.1	2,907	210.6
7	61	38.6	7,226	56.5	6,906	20.4	3,298	△ 18.5	4,194	67.3
8	46	△ 54.0	7,014	59.4	6,872	65.6	2,543	△ 16.3	4,219	30.8
9	—	—	6,230	4.7	4,937	△ 16.3	2,852	△ 19.9	4,242	18.3
資料出所	長野県建設部住宅課		信南交通株式会社							

項目 年月	自動車新規登録台数 (松本自動車検査登録事務所管内)				有効求人倍率		
	新車		中古車		長野県	飯田管内	
	実数	前年比	実数	前年比	季節調整値 (但、年平均は実数)	パート含む実数	パート除く実数
	台	%	台	%	倍	倍	倍
平成27年	30,124	0.1	7,819	10.8	1.25	—	—
28	27,751	△ 7.9	7,433	△ 4.9	1.41	—	—
29	27,349	△ 1.4	7,274	△ 2.1	1.60	—	—
30	27,525	0.6	7,352	1.1	1.70	—	—
令和元	29,312	6.5	8,548	16.3	1.60	—	—
2	26,002	△ 11.3	8,674	1.5	1.16	—	—
令和2.7	2,204	△ 19.4	881	10.1	1.05	0.90	1.03
8	1,765	△ 21.0	664	6.8	1.02	1.00	1.03
9	2,743	△ 17.9	767	△ 4.6	1.03	1.04	1.09
10	2,214	23.3	787	3.4	1.05	1.03	1.09
11	2,174	3.5	680	4.3	1.08	1.15	1.26
12	2,127	5.8	701	6.2	1.13	1.24	1.33
令和3.1	2,062	2.8	523	3.8	1.17	1.24	1.40
2	2,192	△ 1.5	665	△ 3.9	1.19	1.22	1.41
3	3,873	6.6	1,059	15.9	1.25	1.23	1.40
4	1,891	19.2	834	3.5	1.30	1.19	1.38
5	1,581	15.6	648	26.6	1.32	1.18	1.35
6	1,929	△ 1.3	780	1.8	1.40	1.31	1.47
7	2,040	△ 7.4	759	△ 13.8	1.44	1.41	1.60
8	1,820	3.1	634	△ 4.5	1.41	1.41	1.59
9	1,737	△ 36.7	724	△ 5.6	—	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				長野労働局・ハローワーク飯田		

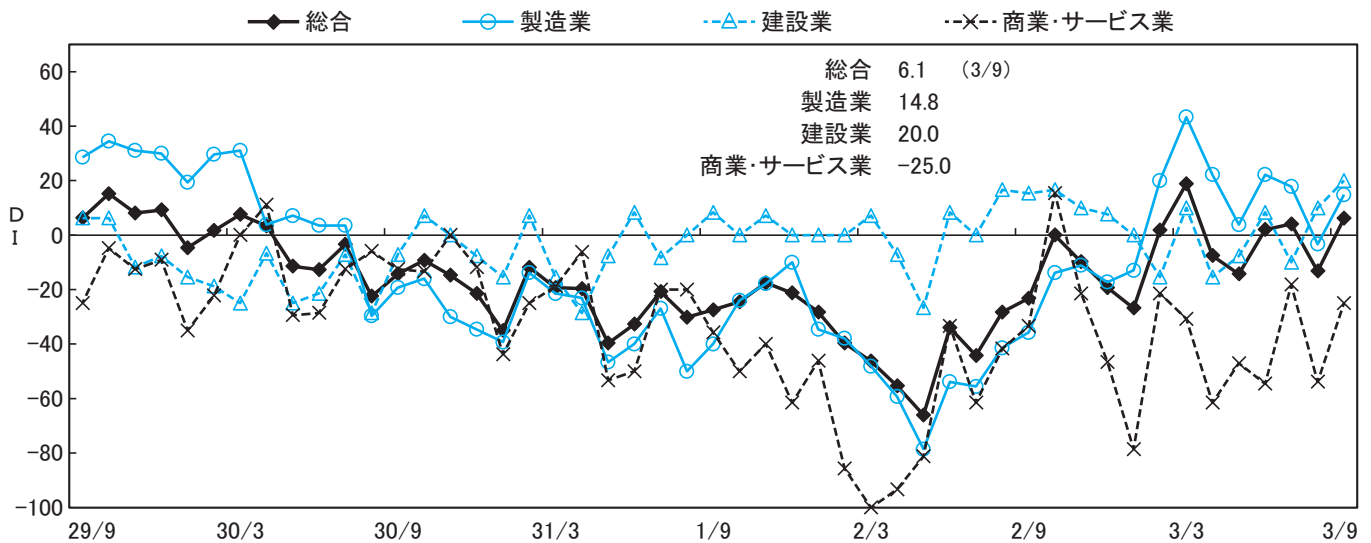
※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	手形交換高		倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	枚数	金額	長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	枚	千円	件	件	件	%
平成27年	51,892	58,937,709	86	12	2,120	3.1
28	47,284	53,411,735	88	8	2,004	△ 5.5
29	44,601	56,085,863	81	10	1,914	△ 4.5
30	40,929	54,405,406	93	20	1,815	△ 5.2
令和元	37,047	51,833,945	79	8	1,842	1.5
2	32,204	47,885,737	80	8	3,707	101.2
令和2.7	2,707	3,487,706	9	2	520	219.0
8	2,523	3,871,691	8	1	343	136.6
9	2,440	4,100,814	6	0	235	32.0
10	2,260	3,214,705	7	0	213	43.9
11	2,688	3,479,775	6	0	203	39.0
12	2,697	3,556,043	2	0	250	20.8
令和3.1	2,219	3,207,004	3	0	110	△ 15.4
2	2,377	3,521,051	9	1	178	20.3
3	2,989	5,343,135	11	1	506	121.0
4	2,459	3,407,990	3	0	65	△ 74.9
5	2,389	3,635,849	4	1	84	△ 84.6
6	2,513	4,200,108	5	1	102	△ 83.8
7	2,156	2,697,156	6	1	95	△ 81.7
8	2,688	3,819,754	1	0	115	△ 66.5
9	2,280	2,770,797	4	1	140	△ 40.4
資料出所	飯田手形交換所		南信州地域振興局商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

項目 年月	中央道利用台数 (インターチェンジ出入合計)									
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C		座光寺 S I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
台	%	台	%	台	%	台	%	台	%	
平成27年	2,780,683	△ 0.1	1,821,617	△ 0.7	435,939	19.6	1,047,675	7.0	—	—
28	2,755,469	△ 0.9	1,819,412	△ 0.1	375,892	△ 13.8	1,022,578	△ 2.4	—	—
29	2,759,316	0.1	1,865,085	2.5	368,243	△ 2.0	1,018,661	△ 0.4	—	—
30	2,765,376	0.2	1,871,062	0.3	423,828	15.1	1,017,497	△ 0.1	—	—
令和元	2,741,865	△ 0.9	1,836,395	△ 1.9	405,661	△ 4.3	1,015,783	△ 0.2	—	—
2	2,191,489	△ 20.1	1,539,468	△ 16.2	330,231	△ 18.6	849,805	△ 16.3	—	—
令和2.7	180,904	△ 22.5	120,200	△ 22.4	21,529	△ 17.5	65,582	△ 18.9	—	—
8	182,549	△ 29.4	129,197	△ 24.0	35,815	△ 12.2	82,106	△ 25.0	—	—
9	195,154	△ 17.1	141,575	△ 13.5	31,194	△ 2.0	80,377	△ 9.7	—	—
10	210,908	△ 7.4	156,747	△ 1.4	42,201	21.9	90,939	2.6	—	—
11	209,769	△ 13.8	164,232	△ 8.9	36,975	△ 10.7	95,852	△ 9.2	—	—
12	184,721	△ 17.0	133,006	△ 12.4	20,329	△ 26.1	67,333	△ 14.2	—	—
令和3.1	146,814	△ 28.8	102,471	△ 24.0	17,309	△ 28.1	49,999	△ 29.6	—	—
2	152,693	△ 20.3	107,189	△ 16.5	17,504	△ 29.9	54,490	△ 20.0	—	—
3	196,614	0.1	132,148	2.2	21,394	△ 12.9	73,022	2.7	7,353	—
4	165,491	21.5	97,922	4.0	40,698	107.5	77,955	51.5	51,242	—
5	155,371	23.4	93,665	4.9	28,403	34.7	67,694	52.0	49,070	—
6	161,287	△ 5.9	101,444	△ 14.4	23,748	△ 14.8	63,407	3.2	51,295	—
7	178,849	△ 1.1	109,836	△ 8.6	27,957	29.9	84,791	29.3	57,001	—
8	163,627	△ 10.4	96,034	△ 25.7	27,010	△ 24.6	80,197	△ 2.3	49,324	—
9	160,176	△ 17.9	106,413	△ 24.8	24,117	△ 22.7	72,290	△ 10.1	54,464	—
資料出所	中日本高速道路(株)名古屋支社飯田保全サービスセンター									

飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI（本誌調査）



統計調査から

【総務省家計調査に見る、平均消費性向の推移】

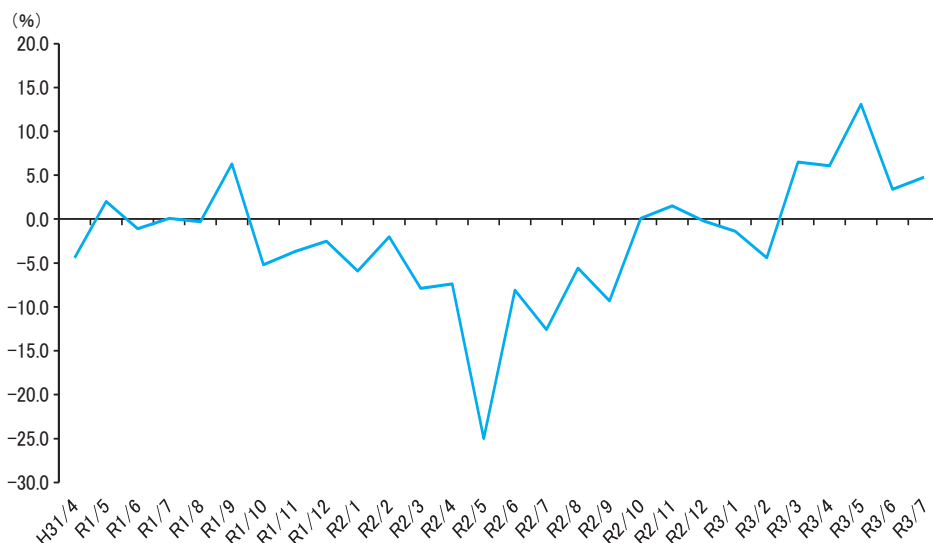
総務省の家計調査では、平均消費性向（所得に占める消費の割合）を算出している。

下記は、全国の勤労者世帯の平均消費性向について、前年同月との差の推移を示したもの。

令和3年7月は、調理食品、飲料、交通費、通信費といった支出が前年同月より増加し、平均消費性向は56.2。令和2年7月の51.4から4.8ポイント上昇した。

とはいえ、令和元年7月は64.0、平成30年7月は63.9で、令和3年7月の平均消費性向はこの水準には回復していない。

平均消費性向 前年同月との差（全国・勤労者世帯）



（資料：総務省「家計調査」）